

## 果樹カメムシ類の多発生にご注意ください！

チャバネアオカメムシやクサギカメムシなどの果樹カメムシ類は（写真1，2）、各種果樹の果実を吸汁し、果実の落下や奇形などを引き起こします（写真3）。

フェロモントラップを用いたチャバネアオカメムシの誘殺数調査の結果、6地点中5地点で5月第5半旬までの総誘殺数が多くなっています（表1、平年比：118～458%）。とくに5月第5半旬の誘殺が増えています。

チャバネアオカメムシは、前年にスギ・ヒノキの球果量が多い年は翌年の発生が多くなります。昨年はスギ・ヒノキの球果量が多かったため、今後、気温の上昇に伴って、果樹園への果樹カメムシ類の飛来が多くなることが懸念されます。



写真1 チャバネアオカメムシ



写真2 クサギカメムシ



写真3 カメムシ類の加害による奇形果

表1 チャバネアオカメムシのフェロモントラップによる誘殺数

調査開始月	調査地点	5月第5半旬の誘殺数	調査開始から5月第5半旬までの総誘殺数		
			総誘殺数(頭)	平年値(頭)	平年比(%)
4月	宇都宮市	206	270	58.9	458
	芳賀町	161	365	90.3	404
5月	那須烏山市	5	6	1.8	333
	矢板市	9	50	42.4	118
	宇都宮市	109	158	85.0	186
	佐野市	97	120	72.1	166

### ◎防除対策

- 多目的防災網を展張する。展張に併せて網内に害虫が残らないように防除する。
- 袋掛けは早めに行う。
- カメムシ類の飛来は長期間続くため、表1を参考に残効期間の長いピレスロイド剤や、忌避効果の期待できるネオニコチノイド剤を活用して防除する。

### ◎備考

- 山林に隣接するほ場や、過去に多発したほ場では特に注意する。
- 蒸し暑い日没時に飛来が多い。ほ場をよく観察し、発生を認めたら防除する。
- 過度の薬剤散布は、天敵層を破壊し、ハダニ類やカイガラムシ類の多発生を招くので、必ずカメムシ類の飛来を確認してから防除する。
- 夕方や早朝の防除が有効であるが、近隣への薬剤のドリフトや、騒音に注意する。

表2 カメムシ類に登録のある主な薬剤（令和元(2019)年5月31日現在）

作物名	農薬の名称	使用時期	希釈倍数使用量	本剤の使用回数	系統	RACコード
なし	アディオフロアブル	収穫前日まで	1500倍	2回以内	ピレスロイド	E3(A)
なし (5月～7月)	ロディー水和剤	収穫前日まで	1000倍	2回以内	ピレスロイド	E3(A)
	MR.ジョーカー水和剤	収穫14日前まで	2000倍	2回以内	ピレスロイド	E3(A)
	ベストガード水溶剤	収穫14日前まで	1000～2000倍	3回以内	ネオニコチノイド	E4A
りんご (5月下旬～)	ホクコースミチオン水和剤40	収穫30日前まで	800～1000倍	3回以内	有機リン	E1(B)
りんご	アクタラ顆粒水溶剤	収穫7日前まで	2000倍	2回以内	ネオニコチノイド	E4A
	クミアイスプラサイド水和剤	収穫30日前まで	1500倍	2回以内	有機リン	E1(B)
もも	ホクコースミチオン水和剤40*	収穫3日前まで	800～1000倍	6回以内	有機リン	E1(B)
	アグロスリン水和剤	収穫前日まで	2000倍	5回以内	ピレスロイド	E3(A)
	アーデント水和剤	収穫前日まで	1000倍	3回以内	ピレスロイド	E3(A)
かんきつ	アグロスリン水和剤	収穫7日前まで	2000倍	3回以内	ピレスロイド	E3(A)
	スタークル顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	ネオニコチノイド	E4A
	アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	ネオニコチノイド	E4A

\*ホクコースミチオン水和剤40はももで薬害を生じるので、6月までは使用しない。

詳細は、農業環境指導センター（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）までお問合せ下さい。  
 病害虫情報発表のお知らせは「農政部ツイッター(@tochigi\_nousei)」でも発信中です。  
 (TEL 028-626-3086)